



熱中症予防対策のさらなる強化をお願いします

近年、職場における熱中症が多発しています。運送業においては、建設業、製造業に次いで多く(死亡者及び休業4日以上)の業務上疾病者の数(2013～22年の累計)、8月も引き続き熱中症予防対策が不可欠です。

管理者は、点呼時に熱中症予防の観点からドライバーの体調を確認することも、重要な対策のひとつです。厚生労働省では、対策に関するマニュアルや動画を公表しているので、参考にしてください。

熱中症予防対策、管理者が仕事前にチェックすべきこと

(①～③は作業者に対して確認)

- ①昨夜はよく眠れましたか?⇒寝不足だと体温調整機能が低下
- ②ごはんはしっかり食べましたか?⇒食事で水分・塩分・糖質などの摂取が可能
- ③体調は良いですか?⇒持病のある人には「服薬確認」も
- ④「熱中症警戒アラート」を確認

⇒当日朝にアラートが発表された場合、
状況次第で作業の段取りを見直す

「熱中症警戒アラート」は
こちら



「熱中症ガイド
(リーフレット)」は
こちら



「自分のできる熱中症予防」
(動画一覧)は
こちら



出典:厚生労働省「働く人の今すぐ使える熱中症ガイド」



高速道路で渋滞発生中！ 運転中の少しの心がけが緩和につながります

8月のお盆期間や夏休みシーズンは渋滞が発生しやすく、疲労による集中力の低下で事故につながってしまうことも。高速道路での渋滞のうち約7割が交通集中によるものといわれており(2022年)、このうち渋滞発生箇所の内訳として、上り坂および「サグ部※」が約6割と過半数を占めています。渋滞緩和には、発生原因を知った上で、渋滞を緩和するための“ちょっとした心がけ”の実践がポイントになります。 ※:下り坂から上り坂にさしかかる凹部

●渋滞発生箇所

上り坂およびサグ部

下り坂から上り坂にさしかかるサグ部では、上り坂になってもその変化に気がつきにくく、アクセルを踏み込まないため速度が低下します。これにより、後続車は前車との車間距離が縮まり、次々にブレーキを踏むことになり、渋滞がどんどん後ろに伸びていきます。



●対策

スピードメーターを確認しながら速度をキープ

無意識な速度低下に注意しましょう。サグ部を示す「渋滞ポイント標識」や「速度回復表示板」での呼びかけも行っているので、こちらも意識して運転してください。

出典:NEXCO東日本「高速道路の渋滞対策」